

洛友会会報

京都大学電気系専攻内
洛友会
〒615-8510
京都市西京区京都大学桂
075-383-7014
www.rakuyukai.org



「人作り」に想うこと

前東京支部長 松田晃一（昭43年卒）



洛友会報への原稿執筆の依頼を受けたときは東京支部長の任にあったのですが、去る六月十三日に開催された支部総会において、井上新支部長にバトンタッチをさせて頂いたところです。この間、色々のご支援、ご協力頂いた多くの会員の方々、関係者の皆様からお礼申し上げます。今は、肩の荷を降ろしてほっとしながらこの原稿を書いているところです。

ここ数年、東京支部の活動の重点の一つは、若い人達に洛友会の

す。今後はこの輪をもっともっと大きな輪に育てていくことができれば、と大いに期待しています。

■新入社員の実践力

さて、新入社員と言え、最近の新人は社会で働くための基盤となる力をしっかり身に付けていないか、社会へ出てきているのではないかと、という声を聞きます。私が現在勤務している独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）は、ソフトウェア分野における国際的な競争力を高めるための施策を実行するための組織で、IT分野の人材育成も大事な仕事のひとつです。たとえば情報処理技術者試験は、IT人材育成の一環としてIPAが長年にわたって実施してきたものですが、現在は年間六十万人以上が受験する最大規模の国家試験になっています。これは、大学入試センター試験の受験者数に匹敵する規模です。その多くは社会人としてIT関係の仕事に従事している人たちが、自らの技術を磨き、その力を試すために受験されています。一方で、新卒の学生については、情報系の大学を卒業したにもかかわらず、必ずしも企業の期待に応えられる学生ばかりではない、という厳しい声が聞こえます。産業界が新卒学生に期待しているのは、もちろん即戦力として働ける「実戦力」を指しているのではなく、現場の種々雑多な課題を解決していくために無くてはならない基礎的な力を幅広く身につけて欲しいということ。単なる知識として知っているだけではなく、具体的な問題にあてはめて知識を使いこなす力、つまり「実践力」です。

■「高校生のレストラン」に思う、人作り

以前に「高校生が切り盛りするレストラン」として人気の店の話題が新聞で紹介されていました。調理はもちろん、接客から配膳、会計にいたるまで、レストランの運営のすべてを60人の高校生が切り盛りしているそうです。三重県立高校の食物料理科に在学中の生徒たちで、ほとんどが将来飲食関係の仕事を目指しているため、自分たちが作った食事やサービスで「世間に通用する」「ちゃんとお金がいただける」という手応えと喜びを実感しながら、生き生きとした活動に参加しているようです。自分の力を実社会がどのように評価してくれるか、常に現場で確認することは実践的な力を身に付けるには何よりも重要です。この高校生たちはレストランという現場を通して、教室で学んだ知識を、実践的な力に変えることができているのだと思います。

■人作りの産学連携を

一方、大学に目を転じてみると、大学医学部には付属病院という臨床の現場があり、教育学部には付属学校という教育の現場があります。しかし、情報学部がこのような現場を持っている例を聞いたことがありません。大学自身の運営にも、多くの情報システムが必要ですから、まずは学内の様々な情報システムの開発を実践的教育の生きた題材にすることができれば、真剣勝負の開発現場を教育の場に用意することが出来るのではないかと、思うのですが如何でしょうか。

洛友会報への原稿執筆の依頼を受けたときは東京支部長の任にあったのですが、去る六月十三日に開催された支部総会において、井上新支部長にバトンタッチをさせて頂いたところです。この間、色々のご支援、ご協力頂いた多くの会員の方々、関係者の皆様からお礼申し上げます。今は、肩の荷を降ろしてほっとしながらこの原稿を書いているところです。

洛友会報への原稿執筆の依頼を受けたときは東京支部長の任にあったのですが、去る六月十三日に開催された支部総会において、井上新支部長にバトンタッチをさせて頂いたところです。この間、色々のご支援、ご協力頂いた多くの会員の方々、関係者の皆様からお礼申し上げます。今は、肩の荷を降ろしてほっとしながらこの原稿を書いているところです。

洛友会報への原稿執筆の依頼を受けたときは東京支部長の任にあったのですが、去る六月十三日に開催された支部総会において、井上新支部長にバトンタッチをさせて頂いたところです。この間、色々のご支援、ご協力頂いた多くの会員の方々、関係者の皆様からお礼申し上げます。今は、肩の荷を降ろしてほっとしながらこの原稿を書いているところです。

会員寄稿

えいでん

森 俊行

(昭53年卒・関西支部)

卒業して32年になります。約30年間、京阪電気鉄道に勤めておりましたが3年前に初めてグループ会社に出ることになり、叡山電車にやってきました。

吉田キャンパスから近いのでご存知いただいていることとは思いますが、改めて当社のことを紹介させていただきます。

叡山電車は、出町柳駅から宝ヶ池駅を経て、比叡山の麓の八瀬比叡山口駅に至る叡山本線5・6kmと宝ヶ池駅から岩倉、貴船を経て鞍馬駅に至る鞍馬線8・8kmからなります。

もともと京福電車の一路線と言うことで、嵐山地区の『らんでん』に対して、当社路線は『えいでん』と呼ばれており、分離後もそのまま『えいでん』と呼んでいたと思います。

私自身は、学生時代に下宿をしていたのが吉田山の東側でしたし、百万遍より西へは今出川通を通ることがほとんどで、出町あたりに行くことはあっても出町柳には行ったことはありませんでした。

東大路通と交差する元田中駅のすぐ傍に同級生が下宿していたので、電車がトコトコと走るのは見かけていましたが、まさか30年後に自分が働くようになるとは、それこそ夢にも思いませんでした。そして、その30年間に叡電を取り巻く環境も大きく変化しました。

京福電気鉄道株式会社の一路線から、昭和60年に叡山電鉄株式会社となり、平成元年に京阪電車が出町柳まで延長され、それまでジリジリと減っていたお客さまが通勤通学でおおいに賑わいました。しかし、平成9年の京都市地下鉄の国際会館延長で再び減ってしまいました。

その後、先輩諸氏の努力によって、夏の避暑、秋の紅葉を中心に観光路線としての知名度を得るとともに沿線の住宅も少しずつ増えてきています。

ところで、ここで当社線のそもその成り立ちを少し、「京都電燈株式会社五十年史」(昭和十四年)から叡電の部分の一部を抜粋させていただきます。

京都市繁榮策(観光登山鐵道の敷設)

元來京都市の生命は産業と同時に觀光であつた。然も觀光都市と

しての施設は交通機關の完備が第一であり、殊に洛北比叡の如き名勝古蹟に恵まれながらその不便なる地は尚更のことであつた。そこでこの方面に鐵道を敷くことは市民多年の熱望するところで、既に明治三十年には田中源太郎、高木文平氏等その他有力者が發起人となり、資本金三十五萬圓を以て叡山鐵道を計畫したことがあつた。

その計畫によれば起點を出町とし、比叡山西塔附近に達する平坦線七哩アプト式三哩合計十哩の輕便鐵道であつたが、後アプト式を廢して八瀬より山上は螺旋形に迂回し、四十分の程度の勾配で頂上に登る計畫に改めたけれど、採算の見込立たず中途でこれを放棄した。

次に吉田佐吉氏も叡山四明ヶ嶽に至るアプト式による鐵道を計畫し、免許まで得たがこれも中途で挫折した。その他それに類似の計畫を立て、出願する者も相當あつたが何れも完成するまでに至らず一般市民はまことにこれを遺憾としてゐた。

そこで当社が京都市に於て永年その電氣事業を經營し、今日の隆盛を築くに至つたのは一に市民愛顧の賜に他なく、その恩義に酬いべく、また京都市繁榮の一助ともすべく、收支の關係、損益の問題を度外視して、市内より高峰

三千尺の比叡山上まで僅々三十分で達する叡山電氣鐵道を敷設することになつた。

と云う具合です。当初が比叡山頂までアプト式の計画だったというのもびっくりですが、最後の「損益の問題を度外視して、」というのも当事者にはショッキングです。ちなみに出町柳から八瀬(現在の八瀬比叡山口)間の開業は大正14年、山端(現在の宝ヶ池)から鞍馬間の全線開業は昭和4年で

ではここで、少し沿線の宣伝をさせていただきます。

出町柳から修学院・宝ヶ池あたりまでは市内電車の雰囲気です。車窓の両側に民家が続き、所々から大文字や比叡山が垣間見えま

す。宝ヶ池から二軒茶屋あたりまでは岩倉を中心とした郊外電車。車窓からの景気は少し開けており、区画整理された住宅地が広がります。そして所々には里山があると

言う風景です。そして、二軒茶屋から鞍馬まではちよつとした山岳電車という三つの顔を持っています。

一乗寺から修学院の間の路線東側の東山沿いには、赤山禪院、曼殊院、修学院離宮、圓光寺、詩仙堂、金福寺と四季折々の散策に適した

寺院などが続きます。宝ヶ池から分かれた比叡山の麓八瀬比叡山口附近は、昔遊園地があつた賑やかさはありませんが、ケーブル、ロープウェイも含めて、桜、紅葉とかつての景勝地の面影を残しています。

鞍馬線には、岩倉に「床みどり」「床もみじ」の実相院、木野に比叡山を借景にした圓通寺や妙満寺があります。

さらに二軒茶屋からは、50%(千分の50)の急勾配がはじまり、市原駅と二ノ瀬駅の間には、当社の売り物の「もみじのトンネル」(写真)があります。秋には線路の両側、そして上空を紅葉が覆います。(実は伸びてくる枝を電車が通れるぎりぎりまで切るようにメンテナンスをしています)

そして、貴船口からは夏の川床で有名な貴船の料亭街、貴船神社へ、終点の鞍馬からは鞍馬寺へと続きます。

11月の紅葉のシーズンには貴船界隈と「もみじのトンネル」のライトアップを行っています。私は



私服で電車に乗って、もみじのトンネルでお客さまから歓声があがるのを聞くのを密かな楽しみにしています。

秋の紅葉は幸い知名度も上がりましたが、その他のシーズンはまだだということなんです。夏の貴船の川床(かわどこ)は雰囲気があり涼味も満点ですし、沿線のどこでも新緑を堪能していただけます。冬は寒いですが、牡丹鍋など美味しいものを食べさせてくれるお店もたくさんあります。

と、宣伝ばかりになりましたが私自身、学生時代に近くでも知らない存在だった『えいでん』を皆様にもう一度見直していただければと思いますご紹介させていただきます。

住めば都

藤野 盛夫

(平8年卒・四国支部)

故郷である四国に職を得て12年が経過した。この間、何度かの転勤があり、今春、6回目の引越を経験した。引越と一言にいっても、独身時代の簡単な引越にはじまり、結婚をしてからの大荷物での引越、また荷物の輸送に数日間掛かる長距離の引越と、生活スタイルや勤務場所の変化に応じて色々なパターンの引越を経験してきた。

た。しかし、不思議なことに引越の前後に感じることはいつもよく似ている。今回は、私なりに感じた引越に対する思いや引越の魅力について書いてみたい。

洛友会の皆さまにおいても、転勤・転宅等で引越経験の豊富な方も多いと思うが、私の場合、平均すると2年ごとに引越している計算となる。こう書くと、引越も要領を得てスムーズにこなしているかのようだが、恥ずかしながら毎回、「公共料金の精算方法は?、市役所の手続きは?、植木鉢についてどう荷造りするの?」などと前回引越した時の微かな記憶を頼りに、あたふたしながら当日を迎えている。

そんな慌ただしい引越の時に毎回思うのが、「ここに来た時は知り合いもなく、どうなることかと思ったが、住んでみると知り合いも沢山で、すごいい所だったなあ。引越するのは名残惜しいなあ。」ということである。『住めば都』とはよく言ったもので、私は毎回この言葉の意味をしみじみと感じている。引越して来た当初の不安が大きかった分、転出する時には、住み慣れた部屋や良くしてくれた人々への感謝など、ひたひたの思いが込み上げてくる。引越の前夜は、ダンボール箱に囲まれたわずかなスペースで小さく

なつて寝るのが通例だが、翌日の引越への不安と迫り来る寂しさに、なかなか寝付けずに朝を迎えることが多い。

今回の引越が完了したある日、妻に「前の所は何がよかった?」と聞くと意外な返事が返ってきた。てっきり「お気に入りのスーパーマーケットや職場の同僚のことかと思ったら、「アパートの裏にあった田んぼ」と返ってきたのである。当時、田んぼに囲まれたアパートの1階に住んでいたため、妻いわく、春になると水が張られカエルが賑やかに跳ね、夏の夜には涼しい風が吹き、秋になると稲穂が風にそよぐ、そんな風情を日々楽しんでいたというのである。その前の住まいが街中であつたので、引越してきた当初「何でこんな田舎なの!」とブツブツ

言っていた妻が、実は田んぼを一番気に入っていたのである。人の趣向は時とともに変化し、同じ屋根の下に暮らしていてもその環境に対する感じ方やものの見方が異なる。今回の引越はそんなことを気づかせてくれた。今の新たな住まいはアパートの最上階にあり、妻が気に入るような田んぼも近所にはないが、次の引越の時、何が一番よかったと言うのか、今から楽しみである。転勤はサラリーマンの宿命であ

り、マイナスイメージを持たれることも少なくないが、私は毎回、「次はどんな所で、どんな出会いや発見があるのか」と楽しみにしている。引越により環境が変わると、新たに色々なことに興味を持つようになり、人脈が広がり、ひいては自分の可能性も大きくしてくれると信じている。これからも、ちょつと寂しく、何だか楽しみな「住めば都」を味わいながらサラリーマン人生をエンジョイしたいと、いまだダンボール箱に占拠された家の中で思っている。

同窓会だより

電気・電子昭和38年卒業古希記念同窓会

本会は2、3年ごとに関西、関東持ち回りで開催するのが恒例となっており、今年も関東での開催となった。「京の都に恥じない関東の歴史と文化」を楽しんで頂くこと、神奈川県在住の幹事4名が企画、特に今年度は古希記念ということで総勢34名の参加を得て盛り上がった。

開催日は5月17日、18日。この頃の天候不順にも関わらず、両日ともからりと晴れ上がり、新緑がまぶしい絶好の行楽日和に恵まれ

た。懇親会と宿泊は関東有数の名勝地である江の島島内にあり七百五十年余の歴史を持つ老舗旅館「岩本楼」で行った。

初日の17日は2組に分かれ、「早起組」10名は午前11時に新横浜駅に集合、横浜駅東口から定期船「シーバス」に乗船して海上から横浜の新名所みなどみらい地区を見学しつつバラの花が満開の山下公園に到着。大栈橋まで散策し、さざ波がまぶしい横浜港の風情を楽しみながら昼食の後レトロな洋館の並ぶ日本大通りから地下鉄で横浜に戻り江の島へ向かった。

「のんびり組」12名は午後2時に会場に集合、江の島を散策した。登りは脚に配慮してエスカレーターを利用しつつ江島神社に参拝し秘仏の裸弁天様を拝観、頂上では最近発掘された明治初期の近代温室遺構を見学後展望灯台から湘南海岸の風景を楽しんだ。このうち岩屋見学に向かう途中の茶店で一服、近道で追いついてきた「早起組」と合流して名物生シラスで一杯やるなど早々に大盛り上がりとなった。

宿自慢の風呂(名物「弁天洞窟風呂」と有形文化財の「ローマ風呂」)で汗を流したのち懇親会に入った。和気あいあいの中、参加者34名全員から時間の許す限り現況報告をしてもらい、さらに極め



京大電気電子昭和38年卒業生古稀記念同窓会 平成22年5月17日 於舎本校

る専門学からまさかといった雑学に至るまで実にさまざまな元氣あふれる取り組みが紹介され、一同大いに啓発された次第。まさに同窓会の醍醐味ここにありといった感じでお互いすっかりパワーをやりあった様子であった。

明くる18日も2組に分かれ、ゴルフ組8名は一足早い朝食の後観光組に見送られて出発、鎌倉カントリークラブにて熱戦を繰り広げた。コンペはオネストジョン方式を採用して厳格に審査、宣言スコアに見事1打差の吉川氏が優勝した。ゆつくりとパーティを楽しみ午後6時15分発のクラブバスで大船駅へ行き解散した。

観光組21名は8時45分に宿を立って江ノ電にて鎌倉まで車窓を

楽しみ、円覚寺、建長寺、鶴岡八幡宮の三大寺社を巡った。平日にもかかわらず大勢の参拝客でにぎわっており、新緑に彩られた庭園や建造物を存分に堪能した。途中老舗の精進懐石料理店「鉢の木」にて昼食、ゆかりのある冷酒「時宗」を賞味した方も多かった。鎌倉八幡宮で流れ解散の後賑やかな小町通りを散策、最後はカフェにてコーヒーとケーキで締めて鎌倉駅に戻った。

それぞれお互いの健勝ぶりを称えつつ次回関西で開催予定の卒業50周年記念同窓会での再会を約しての別れとなった。

杉本 錦司 (昭38年卒) 記

本部だより

役員会報告

平成22年度役員会は、去る5月30日(日)午後12時30分より、長尾会長、3副会長、9支部長(九州支部は代理)、本部役員合計17名の出席を得て開催されました。役員会は例年2月に開催されていましたが、今回の役員会から総会に合わせて開催されることになりました。支部長が、東京支部あるいは関西支部の総会と本部総会に出席することにより支部間の

意見交流が一層図られるようになりました。

役員会は、会長の開会挨拶の後、木村幹事長の進行で議題の審議に入りました。平成21年度事業報告と同決算、平成22年度事業計画案並びに予算案が審議承認されました。今秋に実施する計画の企業交流会について審議され、案内状の送付先について議論があり、提出された諸々のご意見を踏まえた上で本部に一任することが了承されました。また、一般会員への寄稿依頼規則について審議された承されました。最後に、教室の現況や各支部活動の状況などの報告があり、定刻の午後2時すぎに終了しました。

事務局 記

本部総会報告

平成22年度本部総会は5月30日(日)、京都のホテル京阪京都において、関西支部総会に引き続き開催されました。本部、支部会員63名の出席がありました。

始めに長尾会長より、学生会員制度ができて洛友会と教室の連携が良くなり大変結構なことであること、あるいは洛友会会報の電子化が開始されて創立当時の興味深い記事が読めるようになったことなどに言及されたご挨拶があり、

その後、木村幹事長の司会で議題の審議に入りました。

平成21年度の事業報告ならびに収支決算書(表(1)、表(2))について事務局より説明があり、木村幹事長より特別会計の事務委託の経緯について補足説明がなされた後、異議なく承認されました。続いて役員改選の議事を挟み、平成22年度の事業計画ならびに収支予算案(表(3)、表(4))についての説明があり、異議なく承認されました。役員改選については、退職に伴う大澤靖治副会長の退任と、松重和美副会長の就任が承認されました。今年度に開催する企業交流会についても審議され、会員から提起された、学生の就職活動との関連や企業間の公平性などに関する意見を踏まえて実施することになり承認されました。また、一般会員に寄稿を依頼する規則についても承認され、今年の10月号から実施されることになりました。その他の報告事項としては、幹事長から会費納入状況などの本部報告、学科長の北野幹事より、電気系教室の現況報告がありました。

一般会員への 会報寄稿依頼について

次号の230号(10月発行)から、一般会員に対し各学年の評議員を通して会報への寄稿を依頼することになりました。これまでの執筆者を卒業年次毎に見ると偏りが見られたため、これを平準化して会報をより多くの会員の情報交流の場にしたとを考えています。依頼の仕方は本文末尾の規則に拠ります。先ず10月号に昭和41年卒、昭和51年卒、昭和61年卒、平成8年卒、平成18年卒の会員のどなたかに執筆依頼が届くこととなります。来年の4月号には昭和36年卒、昭和46年卒、昭和56年卒、平成3年卒、平成13年卒が当番になります。随筆、旅行記、和歌、俳句などどのような内容でも結構です。興味深い記事をお待ちいたしております。

一般会員寄稿規則

1. 卒業年次により会員を5つの連続した年次でグループ化します。1つのグループは10を法として卒業年次(西暦)で1から5までの連続した5つの年次のグループ(Aグループ)と6から0までの連続した5つの年次のグループ(Bグループ)とします。



2. 卒業後50年以上経過した卒業年次はまとめて1つのグループ(シニアグループと呼ぶ)に属します。グループの全ての年次が卒業後50年以上経過した時点でシニアグループに移行します。

3. 卒業後5年に満たない年次が存在するグループには執筆依頼をしません。

4. 会報4月号にはAグループに属する各グループのうち1つの卒業年次に寄稿依頼します。会報10月号にはBグループに同様に寄稿依頼します。

5. 翌年の会報には各グループで前年度寄稿依頼した次の年次の会員に寄稿依頼します。

6. シニアグループには自主投稿を勧めますが特に寄稿依頼はしません。

7. 寄稿依頼は本部から当番となる卒業年次の評議員を通して会員に執筆を依頼します。

なお、支部を通して依頼する会報への寄稿依頼は今後も変わらず継続いたします。

支部だより

四国支部総会報告

平成22年5月21日(金)、高松市内の「全日空ホテルクレメント

高松」において、第55回洛友会四国支部総会が開催されました。本部から木村磐根名誉教授、教室から木本恒暢教授にご出席いただき、四国内からは29名の会員が集まりました。

総会は、四宮四国支部長(昭和41年卒)の挨拶で始まりました。昨年からの1年間を振り返り、政権交代による影響と今後の展望についてのお話、また、消費財の寿命や交換部品の供給について、ご自身の経験談をもとにメーカーとユーザーの認識のあり方など興味深いお話がありました。

次に、木村名誉教授から、洛友会の会費納付状況や学生会員の創設など洛友会の運営改革の取り組みについてお話いただくとともに、会費納付率向上への協力をお願いがありました。

木本教授からは、桂キャンパスの様子や吉田キャンパスでの耐震工事について、写真を交えながらご紹介がありました。また、電気系教室の現在の状況、昨年度の就職状況、新しい教育プログラムについて詳しいご説明があり、支部会員は自らの学生時代を思い起こしながら興味深く聞き入っていました。

続いて、池澤幹事から平成21年度事業報告、会計報告、平成22年度予算案の説明があり、満場一致

で承認されました。

総会終了後、懇親会が富田先輩(昭和23年卒)の乾杯音頭で始まりました。先生方や久しぶりの友人と酒を酌み交わしながら歓談しているうちに、あつという間に予定の時間となり、最後に恒例となっている「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の大合唱で会を締めくくりました。

その後、有志一同は同ホテル21階のバーにて、高松の夜景を眺めながら深夜まで親交を深めました。

藤野盛夫(平8年卒)記



北海道支部総会報告

去る5月29日(土) 18時30分より札幌の定山溪温泉のホテル鹿の湯にて平成22年度北海道支部総会を開催した。定山溪温泉は札幌の

奥座敷とも呼ばれる北海道でも有数の温泉街となっている。

今回は通常の支部総会と形を変え、参加者がゆつくりと懇談出来るよう一泊での開催としたもので、少人数である北海道支部ならではの試みであり、今年度は8名の参加となった。

最初に、中山支部長よりご挨拶

ならびに洛友会役員会の報告等をいただいた後、幹事から前年度会計報告、今年度予算案をご説明し、承認いただいた。

その後、中山支部長のご発声により、懇親会に移り、久しぶりの参加となる方から近況をお聞きした他、学生時代の思い出話等で歓談し、一旦一次会を締めた。

その後は、数名は宿泊の一室に集まりさらに懇親を深めた。

定山溪温泉は札幌中心部から車で1時間ほどの近くに位置しているものの、久しく訪れていない方



関西支部総会報告

がほとんどであり、懇親に加え、温泉もゆつくりと楽しむことが出来、良い時間を過ごすことが出来たと考えている。

今回は一泊での開催としたが、次回は通常通りの開催とするので、多くの方の参加をお待ちしている。

木元伸一(平元年卒)記

平成22年5月30日(日)、ホテル京阪京都において、関西支部総会および本部総会が63名の参加を得て開催されました。また、総会に先立ち、「スーパーコンピューターの動向」シリーズの動向「スーパーコンピューターの動向」シリーズの動向「スーパーコンピューターの動向」と題して講演会を開催しました。講演会では、兵庫県立大学先端計算科学(仮称)研究科設置担当 佐藤哲也教授(昭和38年卒)より、スーパーコンピュータ計画の当事者でおられる先生から、科学的・客観的な実情と歴史についてわかりやすくお話いただき、電気系教室卒業の我々にとつてたいへん興味深い講演会となりました。

支部総会は田村支部長のご挨拶で始まり、田村支部長の司会により進行されました。

渡辺総務幹事より、洛友会関西支部会則の制定、および、新たな関西支部会員交流活動(洛友会関

関西支部総会報告

佐藤先生ご講演



西支部 異業種交流会」の実施について説明があり、審議を経て満場一致で承認されました。

続いて、花田会計幹事から平成21年度事業報告および決算報告があり、また平成22年度事業計画ならびに予算編成、平成22年度関西支部役員改選について審議され満場一致で承認されました。平成22年度の新役員は、

支部長 上田 成之助

副支部長 辻村 順一 (昭和47年卒)

総務幹事 辻村 順一 (昭和46年卒)

会計幹事 井上 欣也 (平成元年卒)

支部総会に続き、本部総会が開催されました。長尾会長のご挨拶の後、木村先生の司会で進行され、鈴木先生から平成21年度事業報告ならびに決算報告があり、続いて平成22年度事業計画ならびに予算

編成が審議され満場一致で承認されました。とくに、企業交流会(仮の実施案)として、「学生と先輩との交流会」として、電気系教室出身者の勤める企業を対象に、企業説明の機会を設けることが説明されました。また、洛友会会報への一般会員からの寄稿に卒業年次による偏りを少なくするための規則が説明されました。つづいて、学科長の北野先生から電気系教室の現状について報告していただきました。

総会終了後は引き続き懇親会が開催されました。松重新副会長のご挨拶の後、前副会長の大澤先生に乾杯のご発声をいただきました。懇親会中には、洛友会本部役員会にあわせて遠方から参加頂いた、中山北海道支部長(昭和33年卒)、向井洛友会副会長(昭和41年卒)、根石中部支部長(昭和42



懇親会風景

年卒)、松田東京支部長(昭和42年卒)、松木北陸支部長(昭和44年卒)からスピーチをいただき、各支部の活動なども紹介されました。平成21年卒の修士二回生の参加とスピーチもあり、世代をこえてたいへん楽しい交流の場となりました。終わりに西川禪一先生から締めのご挨拶をいただき、最後に関西支部恒例の「洛友会の歌」を全員で斉唱して散会となりました。

麻島健(平3年卒) 記

東北支部総会報告

平成22年6月5日(土)、仙台市内の「ホテルモントレ仙台」で平成22年度東北支部総会が開催されました。本部より洛友会事務局長であられます鈴木実先生の御出席をいただき、東北支部からは6名が出席しました。

総会は、井上支部長のご挨拶で始まり、続いて議事では、21年度決算報告、22年度予算案について幹事より説明があり、参加者全員的一致で承認されました。引き続いて鈴木先生より洛友会本部としての最近の動きについて、ご報告いただきました。

総会後の懇親会は大家東北支部顧問の乾杯のご発声で始まり、一年振りに顔を合わせた者同士でお互いの元気で活躍している

近況、学生時代にお世話になった先生の思い出や変遷したキャンパス・吉田山の話、また、地デジやスマートメーターといった時事の話題など、自由な雰囲気での議論に花が咲き、あっとい間に予定の時間となりました。最後に記念撮影の後、来年の総会での再会を約して散会となりました。

東北支部は、東北6県と新潟県在住者より構成されますが、全体でも30数名と少なく、若い人が就職先として当地を選ばれ、支部会員数が増えるよう、また、転勤で一時的にでも東北地域にいられたときは、是非、当支部総会に参加いただこう、お待ちしております。

秋山康人(昭57年卒) 記



北陸支部総会

平成二十二年六月五日(土) 富山市の「名鉄トヤマホテル」において、平成二十二年北陸支部総

会を開催しました。本部から木村磐根先生、教室から和田修己教授をお迎えし、合計二十四名の出席がありました。

支部総会前には、例年同様、講演会を開催しました。今回は和田教授に「設計技術としてのEMC―回路のノイズと電磁特性制御」と題し、パソコン、電気製品やハイブリッドカーなど私たちの身近な事例を交えた高速デジタル回路設計における電磁波対策の他、シミュレーションを活用した最新のESD時代における半導体の実装設計等について、講演していただきました。特に、高速クロックで動作する回路の場合、配線などの導体間に生じる結合インダクタンス、結合キャパシタンスの影響が非常に大きく、回路設計とは別の問題で高速化が制限されているということが印象に残りました。

支部総会では、冒頭、松木支部長より、北陸支部の総会は毎年二十名前後の出席者で、こじんまりとしたサロンの良さがあり、開催場所は北陸三県持ち回りにしており、食べる楽しみもあるといった挨拶がなされました。引き続き、木村先生よりご挨拶をいただき、その後、本部の近況等についてお話がありました。洛友会本部活動の一環として、今秋から学生と卒業生が在籍する企業との間



の交流会を実施予定であるとのご説明がありました。

次に、和田教授より電気系教室の近況についてお話がありました。桂キャンパスの様子、教員の方々の異動状況、グローバルCOEと改組の取り組みのほか、卒業生の進路の状況についてご説明をいただきました。

最後に、支部幹事から支部近況報告、会計報告、支部役員改選に関する議案を説明し、満場一致で承認されました。

総会終了後、記念写真を撮影し、その後、懇親会を開催しました。懇親会は、松木支部長のご挨拶、西村顧問の音頭による乾杯で幕を開け、先生方や先輩・後輩、あるいは友人と酒を酌み交わして歓談し、楽しいひと時を過ごしました。最後に琵琶湖周航の歌を合唱し、松木支部長のご発声のもと、万歳

で散会となりました。

中村智和(平5年卒)記

改選された支部役員

顧問 森本芳夫(昭16)

西村尚和(昭23)

野村精二(昭24)

中島恭一(昭40)

松木純也(昭44)

宮越政通(昭41)

久和進(昭47)

金森閑治(昭40)

柴田明(昭40院)

西念勉(昭46)

安達正利(昭46院)

野村保之(昭52)

長谷川俊行(昭54)

中田和男(昭63)

中村智和(平5)

平成21年度 会費納付状況報告

事務局だより

誤：平22年卒
正：昭22年卒

毎年行っている3月末現在の会費納付状況についてご報告いたします。

3月末現在の会員数は、7,252名ですが、居所の判明している会員数は5,720名です。21年度の会費を納めて頂いた会員数は、2,567名で、前年より328名の増加となりました。物故者を除く現会員数に対しての納付率は、35.4%ですが、4月に洛友会報をお送りしている居所の判明している会員数に対しては44.8%になります。

図1は年度別の納付率、図2は卒業年別のグラフですが、平均値で前年より4.17%増加しました。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

事務局 記

お詫びと訂正

第228号5ページ目「名譽教授だより」にて、高木俊宜先生の卒業年度に誤りがありました。高木先生ならびに皆様にご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。以下のように訂正いたします。

訃報

昭19	千賀 英作	22	5	19
昭26	原田 房佳	22	5	12
昭29	徳永 迪夫	22	1	6
昭47	杉山 彰	20	7	22
平1修	齋藤 幸男	22	3	24

以上の方がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

図2. 卒業年別納付状況 (平成22年3月末現在)

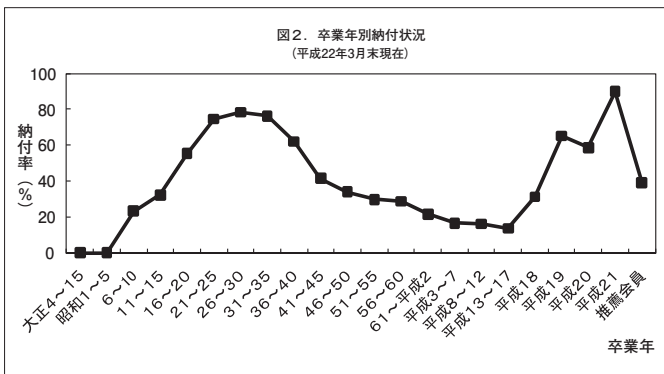
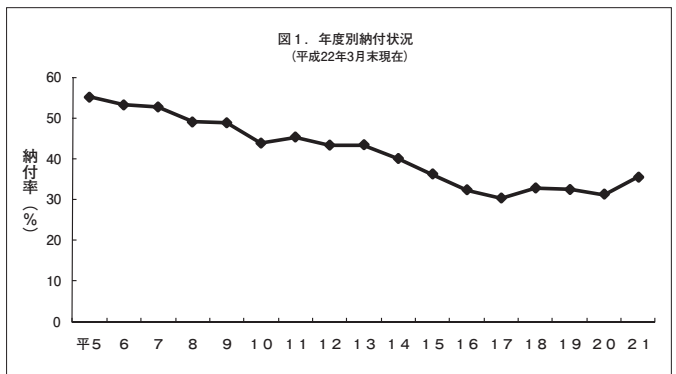


図1. 年度別納付状況 (平成22年3月末現在)



編集後記

5月30日に開催された総会で、一般会員に会報への寄稿をお願いすることが認められました。依頼の仕方は今号の本部便りに記載されています。今度の10月号には昭和41年卒、51年卒、61年卒、平成8年卒、18年卒の年卒の会員のどなたかに学年評議員から執筆依頼が届くことと思いますので、ご執筆下さいませようお願い致します。

大袈裟かもしれませんが、この春は猛暑と酷寒が短い周期で繰り返されました。今は九州地方で局地的な大雨が続いています。地球温暖化の影響はこのように天候の時間的・空間的なゆらぎの振幅が大きくなる形で現れます。地球温暖化をなんとかして抑えないと人類は自然の猛威に吹き飛ばされてしまいます。温暖化の影響とは違いますが、日本の政治もゆらぎの振幅が大きくなっているように思いませんか。

